

広島県事業所工賃向上計画（令和6年度実績報告）

1 事業所基礎情報

作成年月日

2025/5/2

事業所番号	3410500809		
法人名	株式会社ライフハック	法人代表者名	光田 将章
事業所名	らびんぐるっく	利用定員	10名
事業所住所	〒737-0154 広島県呉市仁方棧橋通1493-197		

2 作成者情報

管理者（責任者）	眞田 崇	担当者	光田 将章
電話番号	0823-79-6910	e-mail	mitsuta@lifehack-inc.com

3 目標工賃の設定

月額

※令和6年度から月額のみを設定に変更されています。

4 目標工賃

(単位：円)

区分	令和6年度		差引 実績-目標	達成 状況	令和7年度	令和8年度
	目標額	実績額			目標額	目標額
月額	60,819	60,290	(529)	未達成	61,504	62,238

(注) 目標額は、国の指針（令和6年3月29日障発0329第42号厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長通知）に基づき、次の項目を勘案して設定すること。

- 各事業所の令和5年度の平均工賃実績
- 地域の実情を踏まえ、障害年金と合算して障害者が地域で自立した生活を実現するために必要な収入
- 地域の最低賃金や一般雇用されている障害者の賃金
- 各都道府県の目標工賃

5 収支計画（実績）

(単位：円)

区分	令和6年度※	令和6年度	令和7年度※	令和8年度※	
	計画額	実績額	計画額	計画額	
収支計画（実績）	歳入	8,040,000	8,269,604	14,000,000	14,100,000
	年間売上額	8,040,000	8,269,604	14,000,000	14,100,000
	工賃変動積立金	0		0	0
	設備等整備積立金	0		0	0
	その他収入	0		0	0
	歳出	7,271,271	8,269,604	14,000,000	14,100,000
年間工賃支払総額	6,811,776	7,132,351	11,808,768	11,949,696	
運営経費	459,495	270,198	816,277	816,277	
工賃変動積立金	0	265,225	0	0	
設備等整備積立金	0		0	0	
その他支出	0	601,830	1,374,955	1,334,027	
平均工賃の算出	年間延べ利用者数①	2,336	2,462	3,968	3,936
	延労働時間②（参考）	9,344	10,106	15,872	15,744
	開所日数③	146	146	248	246
	開所月数④	7	7	12	12
	年間工賃支払総額【再掲】⑤	6,811,776	7,132,351	11,808,768	11,949,696
	平均工賃月額※ (⑤÷(①÷③)÷④)	60,819	60,290	61,504	62,238
	平均工賃時間額（参考） (⑤÷②)	729	706	744	759

※ 令和6・7・8年度計画額欄は、「【計画作成時使用】第5期工賃向上計画（R6～R8）計画」シートの計画額が自動反映されます。（変更不可）

6 就労（生産）活動の内容

(1) 就労（生産）活動の分野

ア 現在行っている就労（生産）活動（令和6年度実績）（※複数選択可）

① 菓子製造・販売		⑪ リサイクル事業（空き缶・ペットボトル・プラ等）	
② パンの製造・販売		⑫ 郵便物等の発送（封入・仕分け・発送）	
③ 弁当・惣菜の製造・販売		⑬ 軽作業（部品組立・検品・袋詰・シール貼り等）	○
④ その他の食品の製造・販売		⑭ 農作業請負（農作業施設外就労）	
⑤ 農産物の製造・販売	○	⑮ その他施設外就労	
⑥ 雑貨製造・販売		⑯ PC関係（データ入力・WEB・デザイン等）	
⑦ レストラン・飲食店		⑰ その他（下記に具体的に記載）	
⑧ 印刷			
⑨ 清掃・洗淨・洗車			
⑩ クリーニング			

※令和6年度に行っていた就労（生産）活動に「○」、その他は、具体的内容を記載の上、「○」を選択してください。

イ 上記のうち、売上の上位3位の状況（令和6年度実績）

順位	分野	売上額（円）	活動内容（製品、請負作業等の具体的内容）	施設外就労
1	⑬軽作業（部品組立・検品・袋詰・シール貼り等）	5,983,545	自動車部品の組立と重機部品の組立	○
2	⑤農産物の製造・販売	2,286,059	主にトマトの生産から販売までを行う。その他野菜の生産販売を行っているが規模は小さい。	
3				

(2) 施設外就労の実施状況

区分	令和5年度	令和6年度
	実績	実績
実施の有無	0	有

（注）令和6年度の実績欄に実施の有無を記載すること。

(3) 在宅就労の実施状況

区分	令和5年度	令和6年度
	実績	実績
実施の有無※1	0	無
在宅利用者の割合※2	0.0%	

（注）令和6年度の実施の有無を記載すること。

※1 運営規程に在宅で実施する訓練及び支援内容を規定している場合は「有」とすること。

※2 在宅利用者の割合は、毎年度3月の実利用者数に占める常時（利用日数のうち概ね6割程度以上）在宅で実施する訓練及び支援を受けている実利用者数の割合を記入してください。

（例：3月の利用者15名のうち1名が在宅利用者の場合：1名÷15名=6.7%）

(4) 農福連携の実施状況

区分	令和5年度	令和6年度
	実績	実績
実施の有無	0	有
開始年度	0	2013年
農福連携の収入（売上）額（円）	0	2,286,059
全体売上に占める割合	#DIV/0!	27.6%

（注）令和6年度の実績欄に実施の有無を記載すること。

※1 開始年度は実施「有」の場合に記載（例：令和2年度から実施している場合は「令和2年度」、令和6年度から実施している場合は、「令和6年度」、実施していない場合は「-」とすること。

※2 農福連携の収入（売上）額は、実施の有無が「有」の場合は、令和6年度の実績額を記載すること。

7 就労（生産）活動の現状、課題、具体的な取組方策の点検・評価

(1) 現状及び工賃向上での課題（令和6年度の状況）

ア 現状及び工賃向上での課題（総括）

【就労（生産）活動における現状と課題について、主なものを具体的に記載してください。】

自動車部品の組立については、コロナ禍を通して減った受注が戻るどころか減少を続け、低水準で推移している。新規の受注ができるかが課題である。
野菜の生産については、主力のトマト生産が様々な原因で減産になったことを受けて、改善活動中ですが、どこまで回復できるかは不透明である。
第3の柱となる事業づくり或いは、開拓が急がれます。

イ 工賃向上のために解決すべき課題事項（複数選択可）

① 魅力的な商品の開発ができない	<input type="radio"/>	⑥ 生産性が低下した利用者が増えている	<input type="checkbox"/>
② 販売（受注）先が限定されている（新規開拓ができない）	<input type="radio"/>	⑦ 作業に入れられない利用者が増えている	<input type="checkbox"/>
③ 商品を作っても売れない	<input type="checkbox"/>	⑧ 職員の作業負担が増えている	<input type="checkbox"/>
④ 販売（受注）単価が低い	<input type="checkbox"/>	⑨ 職員のスキルが十分ではない	<input type="checkbox"/>
⑤ 単独受注が難しい（他事業所との繋がりが無い）	<input type="checkbox"/>	⑩ 企業との連携ができていない	<input type="checkbox"/>
⑪ その他（ <input type="text"/> ）			<input type="checkbox"/>

※工賃向上のために解決すべき課題事項に「○」、その他は、具体的内容を記載の上、「○」を選択してください。

(2) 令和6年度の工賃向上の取組の点検・評価

ア 具体的な方策の実施状況

【令和6年度の具体的な方策の取組状況について、具体的に記載してください。】

自動車部品の組立については、単価UPの交渉が上手くいった。世の中の賃上げムードが上手くいった要因である。
野菜販売については、野菜の高騰により、収穫開始段階から値段を高め設定していたので、後半に収量が減少した割には売り上げをある程度確保できた。

イ 目標工賃の達成状況の点検・評価

【令和6年度の目標工賃の達成状況の点検及び評価について、具体的に記載してください。】

令和6年度の目標工賃については、やや未達となった。工賃変動積立金としたお金を工賃として支払えば、達成とはなるものの、野菜生産は基本的に不安定で、4月以降は栽培を失敗した影響が出ることが確実であることから、4月以降の工賃として使えるように温存としました。令和7年度以降の目標を修正する必要があります。

(3) 令和7年度以降、計画している改善策

※(2)の点検・評価結果を踏まえて記載

ア 工賃向上のために計画している改善策（複数選択可）

① 商品企画力の向上	<input type="checkbox"/>	⑥ 作業工程の見直し	<input type="radio"/>
② 販路開拓	<input type="checkbox"/>	⑦ 利用者のためのICT機器の導入	<input type="checkbox"/>
③ 販売力の向上	<input type="checkbox"/>	⑧ 職員の負担軽減のためのICT機器等の導入	<input type="checkbox"/>
④ 販売価格の見直し	<input type="checkbox"/>	⑨ 管理者・職員への意識啓発	<input type="radio"/>
⑤ 他事業所とのネットワークの構築	<input type="checkbox"/>	⑩ 市町・企業、他事業所との連携	<input type="checkbox"/>
⑪ その他（野菜生産の環境改善。 <input type="text"/> ）			<input type="radio"/>

※上記の取組評価の結果、工賃向上のために取り組む事項を「○」、その他は、具体的内容を記載の上、「○」を選択してください。

イ 改善に取り組む就労（生産）活動と取組内容（重要な取組3つまで）

1	活動内容	トマト生産
	改善策	⑪その他
	改善に向けた取組内容	トマト生産が失敗した要因となるものを洗い出し、その改善に取り組む。具体的には、以降の事をに取り組む。①ハウス内の地面をより平らにし、養液の流れをスムーズにする。②雨漏り対策。③養液栽培システムの総点検。
2	活動内容	自動車部品の組み立て、トマト生産
	改善策	⑥作業工程の見直し
	改善に向けた取組内容	自動車部品：生産方法の変更（4人構成のラインから6人構成のラインに変更）による生産性向上 トマト栽培：培土チェック方法、養液の自動給液条の見直し
3	活動内容	トマト生産、その他野菜の生産
	改善策	⑨管理者・職員への意識啓発
	改善に向けた取組内容	皆で失敗したことの反省と新たな事業を考案することで、農業部門の売上向上に向けて意識を高める。

(4) 各年度に取り組む具体的な方策

ア 令和7年度の具体的方策

(3)の内容を踏まえ、目標工賃を達成するために令和7年度に取り組む具体的方策を記載してください。
<p>トマト栽培においては、改善を行って、年間収量6トン、売上500万円を目指す。 その他野菜の生産では、2年前にレモンの苗木を植え、本年も苗木を植えており、将来に向けて生産ノウハウを蓄積していく。また、それ以外の野菜についても、前年同様に生産し、量産でき売れるものを見つけていく。 自動車部品の組み立てについては、新規受注を目指す。</p>

イ 令和8年度の具体的方策

(3)の内容を踏まえ、目標工賃を達成するために令和8年度に取り組む具体的方策を記載してください。
<p>トマト栽培は、令和7年度同様に年間収量6トン、売上500万円を維持継続できるよう努める。 その他野菜については、レモンを植えられる農地を開拓し、苗木を植えていく。それ以外の野菜については量産を始める。 自動車部品の組み立てについては、新規受注を目指す。</p>

(5) 事業所の理念・運営方針の共有

事業所の理念・運営方針について、管理者が中心となり、事業所全職員、利用者及び家族に示し、共有したか。	共有した
--	------

(6) 工賃向上計画の共有

工賃向上計画（PDCAサイクルの確立）について、管理者が中心となり、事業所全職員、利用者及び家族に示し、共有したか。	共有した
--	------

(7) 工賃向上計画の推進体制（責任者及び主な職員10人まで）

責任者及び運営体制	役 割	氏 名	役職・職種	
	1	統括責任者	眞田崇	管理者
	2	受注先開拓・販路開拓	森温人	目標工賃達成指導員
	3		平原浩司	生活支援員
	4		新田智美	職業指導員
	5		木村珠緒	生活支援員
	6		小田ひとみ	生活支援員
	7		松永友恵	職業指導員
	8		松崎日都美	職業指導員
	9		佐藤愛	職業指導員
	10		閑野一恵	職業指導員

※令和7年4月1日時点の体制を記載してください。

8 利用者の状況 ※年度中に事業所を利用した実人数としてください。

(1) 利用者の障害区分 (単位：人)

区 分	令和5年度	令和6年度
	実績	実績
身 体 障 害	0	4
知 的 障 害	0	13
精 神 障 害	0	3
発 達 障 害	0	
そ の 他	0	
合 計	0	20

(2) 利用者の生活状況

区 分	令和5年度	令和6年度
	実績	実績
独 居	0	1
家 族 と 同 居	0	17
施 設 入 所 等	0	2
合 計	0	20

(3) 利用者の支援区分 (単位：人)

区 分	令和5年度	令和6年度
	実績	実績
区 分 1	0	0
区 分 2	0	6
区 分 3	0	0
区 分 4	0	0
区 分 5	0	0
区 分 6	0	0
非 該 当	0	14
合 計	0	20

(4) 利用者の年齢構成 (単位：人)

区 分	令和5年度	令和6年度
	実績	実績
18 歳 未 満	0	0
18 歳 ～ 24 歳	0	1
25 歳 ～ 34 歳	0	6
35 歳 ～ 44 歳	0	2
45 歳 ～ 54 歳	0	5
55 歳 ～ 64 歳	0	4
65 歳 以 上	0	2
合 計	0	20

9 利用者の就労（生産）活動への満足度

利用者が事業所での就労（生産）活動にやりがいを感じているか（利用者アンケート）

（単位：人）

項 目	はい	いいえ	どちらとも いえない	合計
① 就労（生産）活動を続けることで出来ることが増えた	16	3	1	20
② 利用者同士の交流など、仲間との関わりが楽しい	12	3	5	20
③ 困ったときに支援を受けることができ、安心して就労（生産）活動ができている	16	1	3	20
④ 希望に合わせた就労（生産）活動ができるように対応してもらえる	15	2	3	20
⑤ 就労（生産）活動での個別支援計画の目標達成に向けて取り組むことができている	18	2	0	20
⑥ 就労（生産）活動を通じて工賃を貰えることで、やりがいを感じている	17	3	0	20

※令和7年4月1日時点の利用者について、上記項目をアンケートした結果を記載してください。

（注）各項目の合計人数は一致させるようにしてください。）